宮本 理一郎 議員

上毛PAの拡張・開発の考えは

町長 商業物販施設は協定書になし

問 本町の活性化にとって、画期的効果を生み出す千載一遇のチャンス。高速道路のPAにおける商業物販施設やGSなど、SA並みに格上げの考えはないのか。

鶴田町長 計画当初、町にPAの位置づけだけだったことを思えば、スマートIC設置は大きな前進である。ネクスコとの協定書に商業物販施設などの計画はない。

問 町の努力でスマートIC開設の運びとなった点は評価するが、作るなら、本町活性化に最大限の効果がでる手法をとるべきではないか。

鶴田町長 スマートIC本来の趣旨は車の乗降で、人・物の流れが地域活性化をもたらすと考える。PAで商業活動をするより、上毛、豊前、中津地域の経済活性化につなげたい。

問 上毛スマートICで乗降する車両は、通過する車両のごく一部。トイレで駐車したお客に対して、商業経済活動のチャンスが生まれ、ここに焦点を当てるべきではないか。

鶴田町長 スマートIC本来の目的に照らし判断したい。

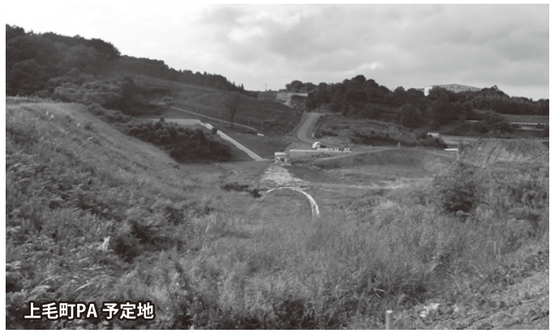
問 第一次事業で、スマートIC開設を先行し、利用頻度を高め、第二次事業で周辺部の総合開発、整備化を推進してはどうか。

鶴田町長 町有地が開発に適応するほど十分な面積があるのか、また、こうげ武楽里や道の駅への影響も考える必要がある。

問 最小限のリスクで、最大限の効果を導き出すことで、住民の理解が得られるのではないか。

鶴田町長 スマートICができただけで経済効果はあると思う。もし商業物販施設をつくるなら、広範囲な町民主体の施設にすることを最大の目的とすべきと思う。

※PAはパーキングエリア、GSはガソリンスタンド、SAはサービスエリア、スマートICはETC専用のインターチェンジ、ネクスコは西日本高速道路㈱。



上毛町PA 予定地

保育所民営化は鶴田町長勇退の英断は

問 扇城学園に移管先が決まり財政軽減の点では、どの程度の負担軽減になるのか。

中住民課長 23年度児童一人当り、公立保育所で47万6千円。私立21万6千円で、公立は2．2倍のコスト高となり、軽減につながる。

問 それぞれの保育園は、統一された保育内容、経営内容とするか。逆に三者三様の独自色、個性を表現したものにすべきか。

中住民課長 それぞれが、いろいろな特色を今後考えてもらう。文化や芸術、運動に精通した園、延長保育、休日保育などの特別保育、要素は多々あり、各園の特色になると考える。

問 扇城学園の提案には、「時代に適した保育」と表現があったが、先進的保育を採用する意欲・方向性を持っているということか。

中住民課長 扇城学園なりの特色ある運営方法があると思う。ただ保護者の意見も参考に学園が方向性を考えることと思う。

問 多くの事業を推進してこられたが、後継者には町政の舵取りをどのように望まれるか。

鶴田町長 まず、行政の後戻りはできない。継承するか、自分の施政方針に沿い、発展的に解消するか。これを選択した上で独自性を発揮すればいいのではないかと考える。

問 任期中の感想、感慨、または町民に対してメッセージは。

鶴田町長 皆様にご支援、ご協力をいただいて今日があり、8年過ぎた。今や周辺自治体から称賛をいただくほどの町になり、これも町民皆様のおかげと、深く感謝している。

問 首長としての、あるべきリーダー像はどのようにお考えか。

鶴田町長 公務員であれば「滅私奉公」。自分を捨てて公のために尽くすことを基本理念として持っていただきたい。

三田 敏和 議員

障がい者相談支援事業の委託先は

坪根健康福祉課長 町内への委託が一番望ましい

問 上毛町の障がい者施設は。

坪根健康福祉課長 障がい者就労支援のA型事業所としてNPO法人村のぱん屋・SUN、東上きのこ苑。児童・青少年を含む障がい者施設として、月の輪学園がある。

問 町は障がい者の日常の相談、相談支援事業を町内のどこに委託しているのか。

坪根健康福祉課長 平成18年の法改正後、社会資源のない中、豊前市、吉富町、上毛町は共同で、専門の相談員を配置している豊前市の障害者相談支援センターみらいに相談業務を委託した経緯があり、現在に至っている。

問 町に委託できる施設はないか。

坪根健康福祉課長 現在、県の指定を受けた施設は町内に1施設（月の輪学園）、豊前に4施設、吉富にも9月に1施設できた。

問 各自治体にあれば、身近な地元施設を活用すべきでは。

坪根健康福祉課長 当然ながら、身近な町内の施設で、委託事業を消化することが一番望ましい。受け手側の体制整備など、今後の課題と感じている。

問 障がい者の方々から、利用にあたって身近に欲しいと聞くが。

坪根健康福祉課長 昨年の4月より、障がい者福祉サービスの利用方法が変更になった。障がい支援サービスを受けるに当たって、利用計画案作成が必要であり、その お願いは、町内施設を含め積極的に活用させて頂いている。

大平楽のその後は

問 ㈲エイトとの間で未解決は。

尾崎企画情報課長 6月議会で予算計上した修繕費で、さわやか市前のプレハブ撤去など、現在すべて解決していない。その後、屋外トイレの洋式化などの要望がある。

問 ハード面が片付けばいいのか。

尾崎企画情報課長 協定書を結んでおり、課題の修繕が全て終われば、ソフト面は運営管理者の課題であろうと思っている。

問 プレハブの撤去ができず、損害が出ていると思うが状況は。

尾崎企画情報課長 間もなく、町の申し立て通りの判決が出る予定であり、森の風が控訴しなければ、強制執行をする。プレハブによる損害は予想できない。

問 入浴回数券の補てんは。

尾崎企画情報課長 4月以降、5023枚使用、補正の400万円を約300万円消化した。

問 5万円のはずが300万円、延々と払い続けるのか、期限を切ることも想定すべきでは。

尾崎企画情報課長 弁護士と相談中で、期限を切ることも考慮中。

問 洋式トイレの検討は。

尾崎企画情報課長 洋式トイレの使用を待つお客様が多いとの要望で、検討すると回答している。

こうげマンの位置づけは

問 先日、小川知事の来町時、こうげマンが活躍していたが。

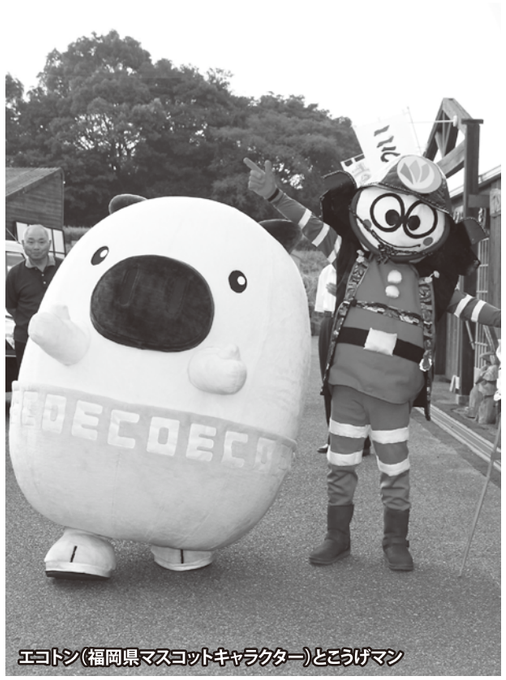
尾崎企画情報課長 生みの親「絵本製作委員会」に了承頂き、各種イベントで活躍している。町の公式キャラと認識している。

問 了承を得たのであれば、住民に広報紙、放送などで広く公表し、町民がそれぞれの思いを持って、町全体でPRすべきではないか。

尾崎企画情報課長 各種イベントに出ているので、認知されていると認識している。

問 2代目のこうげマンの作成を職員が知らない。ピンバッチも職員に徹底していない。自治会長など住民を巻き込んだPRが必要ではないか。

尾崎企画情報課長 ピンバッチは職員や地域づくり団体に無償で配布している。



エコトン（福岡県マスコットキャラクター）とこうげマン